

ながたに暮らし体験記



今年も“遊び心”をもって、

明けましておめでとうございます。

昨年は大変お世話になりました。今年もよろしく願いいたします。

さて、「柴北川を愛する会」の活動が環境省の賞をいただくなど、長年のご努力とその成果が認められましたこと、心よりお慶び申し上げます。

さらなる大輪の花が咲きますよう、そして来ちみなあハウスが下支えのお手伝いができますようお願いしています。

豊かな自然、ふる里愛、そして、五感を研ぎ澄ませる風土……四季折々の風景、川のせせらぎ、林を過ぎる風の音、レンゲやクちなシ、栗の花の匂い、鋭敏な五感に育てられた感性こそ文化創造の淵源です。もはや大都会には求むべくもない資源が大野川流域にはたくさん残されています。いかに活用するか、その知恵が求められているのでしょう。「柴北川を愛する会」、共助研もその一環を担いたいものです。

ところで、若者はときめく面白さがないと U ターンしないそうです。ワクワクドキドキがあったからこそ、帰ってきた、というのです。

一例ですが、福島県小野町では、家族団欒、酒を酌み交わす友だち、老夫婦がお茶を飲んだり、お母さんと子どもが遊んでいたり……。そんな場面が石像となって次々に奉納されています。誰かの遊び心で始まって、共感した市民の皆さんが持ち込むのだそうです。遊び心、ここに文化の源、アツと驚くヒントが生まれるのでしょう。

来ちみなあハウスで、長谷オリジナル文化の夢、アイデアの熱い議論を“遊び心”でやりたいものです。

(共助研会長：針貝武紀)



来ちみなあ 6号

(三ノ岳の初日の出・渡邊雪法撮影)

「来ちみなあ」は、柴北上の県道から北に入った山際にある「来ちみなあハウス」(和洋室5室、ダイニングキッチン、バス、トイレ付住宅)での活動を紹介する通信です。発行：「来ちみなあハウス」店子グループ

共助研からの伝言

長谷でも「田園回帰」を！ その5

昨年11月の勉強会では、長谷での「田園回帰」が検討テーマのひとつでした。

勉強会の初日に、豊後大野市役所の方々のガイドで、大野町の「インキュベーションファーム」を視察しました。インキュベーションとは、「卵を孵化する」という意味。このファームでは、文字通り、若い就農希望者(卵)を一人前の農業担い手として育成する(孵化する)ために、ピーマン栽培等の研修を重ねて、既に5期生までを受け入れています。

覚悟をもって受講したこの研修生たちは、ここで生計を立てる手段を得て、その後豊後大野市内に移住を始めています。まさに、「田園回帰」の現場です。

長谷をはじめとする市内の多くの地区が、これらの若い人にも魅力的な田園環境を整え、その暮らしを支える環境づくりを進めていけば、田園を愛するこのような若い世代の移住が、さらに進むと思いませんか。その環境づくりに、我々共助研も少しは協力できれば、と考えています。

今年もよろしく願います。

(波木健一)

ながたに風



「ホンモノを味わえる場」作り
に夢が膨らみます

焚きたてのかまどご飯、囲炉裏で焼いたじり焼き、もぎたての野菜や果実……心震える美味しさを知っているけど、毎日の生活の中では便利さにおされてどんどん「昔のこと」になってしまいつつあります。

「田園回帰勉強会」のおかげで、面白いアイデアが閃きました。

日常では難しいことを非日常で味わうため、「ダーチャ」(菜園付き手作り別荘)を有志で作ります。

それぞれの得意分野を少しずつ持ち寄れば、他では真似できない「ホンモノを味わう場」ができていくでしょう。ここは人も自然もまだまだ豊かで、今ならその良さを知っている人の話がたくさん聞けます。

たっぷり地元で味わったら、地域限定を解除して「ホンモノを味わえる場」をオープンにします。

「(仮称)ぶんごる食堂」でガッポガッポのウホウホです♪

夢はどこまでも膨らみます。

(平石由美子)



「来ちみなあハウス」の使用について

- ハウスは一時使用が可能です。店子会員でなくても、ハウスの一時使用は可能です。使用料は不要ですが、維持管理のために寄付をお願いします。
- お問い合わせ等は、店子グループ「管理人」まで。
 - ・波木健一(共助研・事務局)
 - ・渡邊雪法(柴北川を愛する会・事務局長)